

第2回宇治市スポーツ推進審議会

議事要旨

宇治市

第2回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

〈開催年月日〉

令和3年6月2日（水） 9時30分～

〈開催場所〉

オンライン会議

〈出席者〉

▶ 委員

長積 仁（会長）	立命館大学 スポーツ健康科学部 教授
佐野 恵理子（会長職務代理）	（一財）宇治市スポーツ協会 理事
上林 功	追手門学院大学 社会学部 准教授
小川 雅洋	（株）京都パープルサンガ 地域連携本部長
小西 美加	京都文教大学 女子野球部総監督
佐藤 朋子	宇治市スポーツ少年団 本部委員
多田 重光	（公社）宇治市観光協会 専務理事兼事務局長
西山 正一	宇治市体育振興会連合会 副会長
森 美奈子	摂南大学 農学部食品栄養学科 講師

計9名

▶ 事務局

松村 淳子	市長
脇坂 英昭	産業地域振興部 部長
荻野 浩造	産業地域振興部 副部長
久泉 昭人	産業地域振興部 文化スポーツ 課長
萬谷 智	産業地域振興部 文化スポーツ課 スポーツ係 係長
小森 一範	産業地域振興部 文化スポーツ課 スポーツ係 主任
玉木 太陽	産業地域振興部 文化スポーツ課 スポーツ係 主任
伊藤 大志	産業地域振興部 文化スポーツ課 スポーツ係 主事
吉高 史彩	産業地域振興部 文化スポーツ課 スポーツ係 主事

計9名

〈会議内容〉

1. 開会

- ▶ 会議録の公開、傍聴者（報道関係者1名）についての紹介
- ▶ 欠席委員の報告
- ▶ 事務局職員紹介

2. 市長あいさつ

この後諮問させていただく宇治市スポーツ推進計画の改定については、委員の皆さまのこれまでの豊富な知識や経験を基に、幅広い視野でご意見をいただき、ご審議いただけるものと期待している。新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が再延長され、引き続き予断を許さない状況の中で、スポーツを推進していくために行政として何ができるか、スポーツの様々な可能性を宇治

第2回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

市のまちづくりに活かして、魅力あふれる宇治の未来を創造するため、委員それぞれの活発なご意見、ご議論をお願いしたい。

3. 宇治市スポーツ推進計画の改定について（諮問）

市長より、宇治市スポーツ推進計画の改定について、長積会長に諮問が行われた。

4. 会長あいさつ

昨年11月27日の第1回審議会から半年が経過した。世の中の情勢が非常に厳しい中で、スポーツの可能性を信じ、スポーツだけに限らず宇治市の未来を創造し、それを実装化する、そういう足掛かりになるような機会となればと考える。また、多様な分野から集まって審議会を構成しているので、英知を結集し、宇治市の未来を創造するという形で審議会を進められればと思う。

5. 議事

➤ 宇治市スポーツ推進計画の見直しにあたって

（事務局）

資料①・②の内容について説明

（会長）

スケジュール感は提示したとおりに進めさせていただく。

この計画と関連計画との関係性と期間など、フレームになるので、中間見直し等も含めて、どのように計画を進めていくかという部分は承認いただければと思う。

➤ 現計画「宇治市スポーツ推進計画」の総括について

（会長）

数字に表しにくいところもあり、人とスポーツの多面的な関わりとして、どうしても“する”という部分やボランティア参加率となり、それ以外での人との関わりが評価しづらいところがある。どの段階にどう至っているのか評価できていないところがある。

課題で挙がっているところでは、結果的に多くのところで人材や人的資源が得られていない。新しい仕組みを作って宇治市のまちづくりに活かすという部分も、なかなかそこにはリーチできていないというのが全体的な課題となると思う。

最後に総括として見直しの基本的な考え方があったが、あくまでも一つの見方となる。現状を踏まえて、12年後を見据えた時に、ここまで宇治市としてリーチしておきたいということを考えて、少し高いぐらいの目標を掲げて中間見直しで修正をかけていくこともできると思う。次のアンケートにも反映しなければならないことになると思うので、計画を推進していくために、総括を踏まえて、次どこにリーチしたら良いか意見をいただきたい。

（委員）

昨年、スポーツ庁が実施した調査では、成人の週1回のスポーツ実施率は3ポイントアップして59.9%になった。コロナ禍でむしろリモートワークが進んで自分の時間ができた等の背景

第2回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

があると思うが、スポーツの力は強いと感じた。

一方で、イベントを実施することの大変さがある。集団でどうスポーツをしていくのかが非常に大変になってきている。そんな中で、スポーツイベントが引き続き実施されているのは、非常に素晴らしいことだと思う。総括でもウイズコロナ、ポストコロナをどう考えていくかという点が挙げられていた。ワクチン接種が進めば状況も変わるかもしれないが、数年後にまた流行した時にイベントができないという話になるのは怖いところである。

現在、Jリーグで試合を円滑に実施するにはどうしたら良いか議論が進められている。オペレーションについて各チームから知見を集めて、ガイドラインとしてまとめ、不定期ではあるが更新している。

今回のコロナ対策に対し、国からトップダウンで具体策が出てくることはほぼなく、現地任せで知見を集めざるを得ない状況となっている。宇治市において、持続可能な形でスポーツイベントを実施していくうえで、コロナ禍でイベントを実施した方々にインタビューや調査をして、記録をしっかりとまとめる必要があると思う。現状、記録が散逸になっていると思うので、これらをまとめることで、今後、貴重な財産になるのではないかと思う。

昨年、山口市で実験的な運動会が行われている。保健所の方や保険医が付き添いのもと、行動を逐次チェックしながら競技が実施され、運動会における感染拡大防止行動についてまとめている。全国の各小中高校では決して多くは無いものの運動会を工夫して行っている事例があり、ソーシャルディスタンスを取ったり手洗いしたり、色々な対策をしている話も聞かれる。宇治市内の公立小中高等学校で行われている運動会があれば、コロナ禍でどう実施したのかということも調査して、まとめておくこともできるのではないかと考える。

集めた知見は、今後、宇治市でイベントをする時に共有できる共有知として上手く活用できると思う。ウイズコロナ、ポストコロナの社会を見据えた取り組みがイベントを促す共有知として活かされれば、そこからさらに支える人材を増やすなど、他のことにもつながるだろう。

「コロナ禍でどう運動したのか」ということを調べられる調査内容が望ましい。

(会長)

指摘のとおりだと思う。何となく今までやっていることを卑下するばかりではなくて、できたことをむしろ財産として、しっかりそれをヒアリングして可視化できるように作業していくことが、次のステージにつながるし、それが新しい関係性やネットワークを構築することにもつながる。

(委員)

現状の課題の5番目、健康づくり、障害福祉、文化、観光、産業等、他分野とのつながりのさらなる強化について、私は宇治市食育アライアンス、別名うー茶んの役員もしているが、ここには65団体程度の食育や健康関連の団体が入っている。そこの加入団体ともつながりながら、特に情報発信の面では連携していけるのではないかと考える。うー茶んでは、数カ月前にYouTubeの「うーちゃんねる」を立ち上げていて、今は色々な人に情報発信をしてもらいたいと、発信者を募っているのです。そういったものも上手く使っていただけたらと思う。

それから、健康長寿日本一のまちづくりを目指すなら、高齢者のフレイル予防を重視してい

第2回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

ないといけないと思う。高齢者でも、健康にすごく関心があって実際に行動を起こしている方もいるが、そうでない方、特にこのコロナ禍で家に引きこもりがちの方に、どのようにフレイルを予防していくかというのも重要な課題だと思う。健康弱者の方にどうアプローチをしていけば良いかということも盛り込んでいただきたい。

(会長)

食育アライアンスでつながっている65団体とつながるチャンスがあるだけではなくて、既に持っているYouTubeチャンネルがあり、情報発信にも使える。多面的なチャンネルを持つことは非常に重要だと思うので、それぞれの活動にプラスして、宇治市で共通してこれだけは言いたいということ等を決めればメッセージの発信もできると思う。

フレイルの話もあったが、高齢者の方々の活動が低下していくことは大きな課題になると思うので、健康づくりとつなげられるようなフレイル予防という観点においても施策に盛り込むことができると感じた。

(委員)

ボランティアの年齢層が高いとか、人数が少ないというところに引っかかっている、若者側からの意見としては、ボランティアとアルバイトを重ねて、バイトを優先して参加しないということが多く考えられるのではないかと思う。大学生や若い社会人の子達を見ていて思うのは、きっかけがない。例えば単位がとれる必須科目としてボランティア活動がある学部もあると思うが、そういった活動として、学生にスポットを当てた形でやっていただくと、気軽に参加できるのではないかと思う。

2つ目として、社会人がボランティアとして参加しようと思う場合、何か特典が欲しいと考える。宇治市以外の方も行きたいと思うようなボランティア内容にするには、やはり手土産、例えば宇治茶もらえますイベントのような、ボランティアの方が得する特典があれば、どんどん若者は参加すると思う。若者が参加して高齢者とのコミュニケーションを取ることで、歴史や地域の勉強が自然とできると思う。若者はそれを求めているが自分からは発信しない。あるものに参加すれば影響力はすぐ拡散されると思うので、そのための特典を考える。

3つ目は、出合いやつながり、友達ができること。みんな、同じ志のある仲間がリンクできるようなイベント、異業種交流会を求めている。今は晩婚化が進んでいて、色々なアプリを使っても出合いを求めるような時代なので、スポーツに関わるイベントに参加できると、一番自然な出合いが作れるのではないかと思う。つながりや出合いという形でやっていけば、人材不足も一瞬で解消できるのではないかと感じる。

(会長)

ボランティアは安価な労働の代わりに使われているという印象で、学生もそう思っている部分もあるのではないかと思う。特典があるということもあるが、ボランティアに参加することが、その人の可能性を開いたり、出合いやつながりに結びついたり、活動とか団体と関わることはもっと魅力的なことだと発信できないかと思う。ボランティアという言葉の固定観念に縛られることもあると思うので、ボランティアの行為そのものに対するイメージを刷新し、参加することに

第2回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

どんな意味があるのかとか、ボランティアに関わってもらう人に対してもメッセージを送らないといけないと思う。そうでないとしんどいし、使われるだけという感覚でボランティアに関わることにならないように、内圧的な自発性を促せるようなメッセージを送る。学生の彼ら彼女らの心をくすぐるような発信ができれば。

(委員)

支える人材不足について、京都文教大学では、宇治市と協働で高齢者アカデミーを開設している。聴講生ではあるが、実際に授業に入って2年間で単位を取って、卒業研究をして修了していただく高齢者アカデミー制度を実施している。既に6～7年程経っていて、何百人という元気な65歳以上の高齢者が学びに来ている。この方々は卒業後、宇治市で何かやりたいという思いがすごく強いので、高齢者アカデミーの卒業生を活用すると、手を挙げる人は多くいると思う。

(会長)

シルバーの方々とか市民の方々も、ボランティア講習会で修了証を出したりするが、結局、学ぶことが主になってしまって、その後の活動につなぐことが全然できていない。輩出するための準備はしているが、その人達が活躍する場面を創造することがなかなかできていないので、活動の場を開くことができれば、上手くいくようなこともあると思う。

(委員)

この3月に京都府内の観光協会の者とコロナ禍の状況等について話をしている中で、ウォーキングとかトレッキングで、前年比100%越えや150%となっていて、例えば天王山ハイキングコースに非常に人が増えていたり、海の京都の方ではカヌー体験とか、少人数でも楽しめる、普段着で歩けるようなイベントで近隣からの人が増えている。観光客と言うよりは、近隣の方が来ているというようなことが報告会でも聞かれた。

大きな大会とは別に、空いている時間、空いている曜日で、天気良ければ歩けるようなコースとかがあれば、親子で歩くこともできるし色々な歩き方ができると思う。コースのインフラ的な整備が必要かもしれないが、そういうのものがあれば、ウイズコロナであっても継続していけるのではないかと。観光というよりは街歩きという部分で、できれば名所旧跡を渡り歩けるようなところがあれば、楽しみが増えるのではないかと感じた。

(会長)

ウイズコロナで、観光も近隣の方々に来てもらって、自分達のまちそのものの資産や資源、魅力を再発見しようと訴えかけている。灯台下暗しにならないように、近隣の方々に誇れるまちだと思ってもらえるように、宇治市の魅力の再発見みたいなものもぜひ、メッセージを発信できると良いのではないかと。ポストコロナになれば、そんなこともあっても良いと思う。

(委員)

Jリーグの取り組みの話があったので、現在、Jリーグではリーグを開催しているが、2週間に1回、全関係者の4,000名程度がPCR検査をしている。それと同時に、2週間に1回、

第2回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

JリーグとNPBの全クラブの社長が集まって、色々な情報交換と発症事例とか世の中の動きなどを先生と分析していただいている。サッカーとNPBが取り組んでいることでは、PCR検査とオンサイト検査。濃厚接触者がクラブ内に現れた場合、試合の2時間前に抗原検査を行って、その時に陽性が出た人はベンチに入らず試合を行う。抗原検査は安い費用で、15分程度で答えが出るので、そういったことを実施している。プラスして、海外から帰ってきたり、海外から移籍してきた外国人とかは、バブルという形で完全に隔離したところ、福島にあるJリーグビレッジのホテルを1棟借り切っていた。この方法が全て今、オリンピックに取り入れられると聞いている。

絶対に出してはいけないということと、感染している人が長い間、他の人に感染させる状況にないということで、事前にPCR検査を受けて、どれだけ無症状の人にしっかりと判定をして早めに予防するかというところで取り組んでいる。今はデータ集めになっていて、今後どうするということよりも、今一番良い方法は何かということ、人数の多いスポーツ組織として今後の政府に役に立てていただくため、すべての情報を政府に共有して積み上げをしながら活動している。京都のスタジアムでも、府からはスタジアムの使用を止めるように申請はあったが、サンガのコロナ感染対策はかなり精度が高いということで、今は5,000人の中で実施している。

もう1つ、ボランティアについては、京都市にスカイというボランティア組織があって、そこから1試合に50人程度いらっしゃっている。その他、大学からのスポーツ体験やスポーツに関する大学や学科、部活の方々が、自分達がサッカーをするうえでこんなにも支える人がいるということを経験するために来られているし、高齢の方は新しい仲間ができたり、第2の人生が役に立っているという感覚を持って、いきいき活動していただいている。

ボランティアで成り立っているイベントはたくさんあるので、市とか団体で音頭を取って、受け入れと情報を集めるシステムができれば、ボランティアは飛躍的に進んでいくと思う。参加した方の幸せ度も、世の中や人の役に立っているという感覚を経験した人の中からどんどん進んでいくことではないかと思う。

(会長)

ボランティアは大きく分けると2つ動機がある。活動とかイベントや団体そのものに興味を持っている人と、ボランティアそのものに興味を持っている人と、大きく分けて2つある。サンガに来ているボランティアの方々は、京都パープルサンガに魅了されて、コミットされていると思うが、宇治市としては、これはチャンスだと思う。既存の団体とつながっている方々のネットワークを使わせてもらって、宇治市の活動を紹介してもらったり、そっちに流し込んでもらうことも十分可能だと思う。それが、多様な方々を委員会に巻き込んでいる意味でもあると思うので、ぜひその連動性や連携性、波及性をつなげていくことができればと思う。

(委員)

コロナ禍で今は各種団体がすべて活動していないが、コロナが終わった後、一斉に行事をする場所や施設の取り合いに傾くと思う。今、宇治市のホームページを見ると、市主催の催しがすべてNGとなっている。これが開けた暁には一斉に動くと思うので、その時には、行政としてコーディネートする必要があると思う。

第2回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

前回は計画策定に関わったが、他市では数値的に表すということをあまりしていないと思う。スポーツは勝つか負けるかだけではなくて、ボランティア的な精神で楽しむということもあるので、その点では数値的に表すのは非常に困難なことかもしれないが、これから進める計画についても、数値で表す方法を取った方が、将来的にもデータが残ると思う。ただ、無理して良い数値を出すのではなくて、素直な数値で良い。それを見て、次に何か考えたら良いと思うので、前向きな数値が良いと思う。

また、宇治市の観光については、お茶と平等院と宇治上神社、萬福寺があるが、そういう有名なところではなくて、街歩きの中で小さな遺跡をアピールする。スポーツだけではなくて「健康＋スポーツ＋地域活動」ということをしていくと、自分たちのまちを守ることにもつながるので、ぜひともそういう方法を考えられると良いと思う。今、秋にはウォークラリーをしているが、春もそういうことができれば、宇治市の活性にもなると思う。スポーツは健康に結びつくので、精神的にも肉体的にも、社会的に良好な状態を保つためにも、まちを振り返るということも整えていってもらえればと思う。

それから、この指針にもあるように、地域で活動していて一番心配するのは担い手不足で、30～50代の方が会社を休んでまでボランティア活動をするのは非常に厳しい状況だと思うので、60～70代の例えばアカデミーを卒業された方が何か地域活動ができるように、実施とともに歩んでいきたいと思う。

(会長)

確かに計画は努力目標ではダメだと思う。達成できたのか、できていないのか、後で振り返ってどうだったのかということを実績に受け止めて、その原因を解明すべきだと思うので、可能な限り、中間や最終年度には振り返ることができるように数量化を図る努力はしていきたいと思う。

魅力の再発見もあるが、高齢化率がこれから上がらざるを得ない状況の中で、どう地域を守っていくのかということについても、非常に重要な視点をいただいた。担い手として、どうしても働き盛りの方は主力として活躍してもらいづらい。そうなった時に、「元気な高齢者」という言い方も失礼だと思うが、活力ある方々がいるなら、そういう方々にどんどん関わってもらおう。バトンも引き渡ししながら、元気な方々に関わり続けてもらうことも考えていければ良いと思う。活力ある宇治市をどう築いていくか、担い手づくりや地域を守ることも考えていきたい。

(委員)

ボランティアに関して、中学校では2年ほど前から、先生達の働き方改革で土曜日か日曜日のどちらか1日は部活動が休みになった。その土曜日か日曜日の1日を、スポーツ少年団の指導員補助みたいなボランティアや地域のボランティア活動に中学生に参加してもらおう。中学校の成績のつけ方で、生徒会とか委員長で内申点が良くなったりするが、目立つ子はそこですごくポイントが稼げるが、おとなしい子達は内申点の加点があまり無かったりするので、そういう地道な活動、地域に根ざして活動している子も、評価のポイントにできれば活性化にもつながると思う。

また、高齢の方はグランドゴルフを毎週のようにされているが、年に1～2回、小学生の子達と一緒に楽しむイベントをされている。核家族の場合、身近で接する機会がない中で、地域のイベントに参加させてもらうことで、子ども達も実感できるだろうし、高齢の方も若い子と触れ合

第2回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

うことで、地域も盛り上がっていくのではないかと思います。

私はPTAの卓球を学校でしているが、私達の後で、体振でバドミントンをされている。その方の中には若い子達も参加していて、学校施設なので費用がそんなにからず楽しくされている。来るところには、若者も来ると思うので、体育協会とか体振とかスポーツ少年団とか、つながりをもっと持てると、もっと掘り起こせるのではないかと思います。

スポーツ少年団自体は小学校で終わって、その後は部活動に入っていくので、中学校に入っても、土日で地元の少年団とか体振とかとつながることができれば、もっと広がって、途中のブランクがなくずっとスポーツ活動を続けられるのではないかと思います。

(会長)

ボランティアは自発性・内発性に裏付けられているが、ボランティアに関わる方々のレベルを考えると、きっかけづくりにちょっとしたメリット感を打ち出すのは問題ないと思う。これからどう関係を紡いで深く実施に関わってもらえるか、様々な活動に関わってもらえるかということを考えれば、そんなきっかけづくりがあっても良いと思う。

少年団、体振、スポーツ協会は最もコミットしていると思っていたが、なかなか難しいのだと感じた。もともと、文科省、スポーツ庁が考えたところは、できる限り隙間を無くしたり、世代間のつながりを持たせることができるような組織間の連携を図るという部分に大きな意味があったと考えると、まだまだそういうチャンスがあると思う。文部科学省は学校の部活動を地域にどんどん開放していくという方向で、政策の軸を切っている。実際に学校の先生が本当に離すのかという疑問もあるが、地域にはたくさんチャンスがあると思うし、地域にはいっぱい資源も資産もあるので、そういうところが上手につなぐことができればと思う。

(委員)

宇治市は公共施設もすごく充実した市だと感じている。プールも公園もたくさんあるし、スポーツをすることに対しては、山城の市町と比べると、ありがたい市だなと実感している。

一方で、自分の子が車椅子に乗っているが、宇治市はそこだけが欠損していると思う。どこへ行っても、車椅子で簡単に入れる店や遊べる場所、運動できる場所、観光地など、行ける場所がない。それを思うと、アンケートにも障害のある方やお年寄りの方達がスポーツをする、体を動かすという点が入っていないし、指針の中にもないのは残念に思う。幼稚園から高齢者までの年齢層を分けてあるが、10年先を見据えるなら、幼稚園や小学生の子がそういう子達と一緒に生活をしながらスポーツをするということを教育していく必要があると思う。色々な子達も同じように生活できるということを見据えた上でのスポーツが、健康につながっていくと思う。教育委員会も一緒になって、小学校や幼稚園に、そういう子達との関わりを一緒にしながら考え方も変えていかないと、スポーツとか体を動かすことも減少していくと思う。

コロナ禍になっても、運動としても歩くことであれば接触なくできる。色々な考え方があると思うが、宇治市は施設があるので、あとは個々の頭の中の思いだけだと思う。

私の子どもは別府市にいますが、別府市は、小学生の頃からそういう施設との交流もあって、着実に障害のある方との接点を持っている。別府市に行くと車椅子の方がたくさん目につく。小学生の子ども達も簡単に手を差し伸べるし、商業施設に行くと車椅子マークの駐車場に健康な方が

第2回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

車を停めるという行為はほぼない。いつ行っても車椅子マークの駐車場は必ず空いている。都会に来ると、施設には車椅子の人は一人もいないのに、車椅子マークの駐車場は満車ということが普通になっている。小学校や小さい頃からの教育や教えが積み重なって、色々な子達に目を向けて手を差し伸べながら、一緒に運動やスポーツ、体を動かすことから健康につなげていくことができると思う。人材が不足していると言われる中で、宇治川マラソンを開催すると、200～300人のボランティアが集まっている。そういう基盤がある宇治市なので、小さい頃からの教育の部分に指針に盛り込んで、学校の取り組みの一つとしてスポーツにつなげていくことを、計画に取り上げられると、5年先、10年先に見据えて、子ども達が大きくなってから役に立つのではないかと思う。

宇治市の施設は、指定管理者制度で次の担い手がなかなかいないと聞いているが、コロナ禍だからこぞできるスポーツ推進計画というのを真剣に考えていかないといけないと思う。学校、小中学生の子ども達を取り込むことを重要視した計画の見直しが必要だと思う。

(会長)

ダイバーシティとかユニバーサルデザインとか、多様性をしっかりと受け止めようという流れがある。さらには昨今、この数日は大坂なおみ選手のことがすごく取り上げられている。彼女の人としての存在より、トップアスリートである彼女の発言をすごく叩いていたメディアが、うつ病だと言った瞬間に手のひらを返して哀れだと言ったりしている。病気を患っていたら可哀相というイメージを持つこと自体が、人の存在をきちんと捉えていない証拠ではないかと感じている。

スポーツが教育的な側面を持っているとすれば、人の尊厳とか社会のありようをしっかりと考えることができる子ども達を育むという視点もあって良いのではないかと感じる。多様性やユニバーサルデザイン、人の存在や尊厳について考えることができる子ども達が育めるまちにしたいということも、メッセージに入れたいと思う。

(委員)

1つ気になっているのはスケートボードで、今年のオリンピックの競技の中に含まれている。選手の年齢が低い部分もあるが、スケートボード選手がもし金メダルを取ると、その選手に憧れて、小中学生がスケートボードをやるのではないかなと思う。これは宇治市内だけではなく、今、駅前ではスケートボード禁止という張り紙が出ていて、少し広い場所では禁止になっている。子ども達は深夜、終電が終わってからしている。オリンピックに出るような選手は、民間施設等でハードな練習をしている部分があるが、宇治市には、そういう施設がない。以前は、スケートボードやインローラースケートは、子どもの遊び道具であったが、競技にも変わっているので、今後のことを考えると、宇治市には色々な体験施設が充実しているが、その中の1つに加えられないかと思う。

(会長)

新しい時代、次の世代、α世代と言われている人達の感性を捉えていくことが重要だと思う。我々の価値観だけで、将来の子ども達の行為を決めてしまうのは非常に危険だと思う。彼ら彼女らが憧れて、健全に活動ができるような場所を作れると良いと思う。

第2回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

以前いた徳島では、市内でスケートボードやインラインスケートをしていて危険なことがあったが、彼らの言い分とすれば、そういう場所がないということで、徳島県では鳴門市の公園にそういう施設を作った。そしたら、そこが少しメッカになった。我々が発信をして、Z世代とかα世代の方が楽しんで健全に取り組むことができるよう、くさびを打っていくこともできると思う。

eスポーツやsociety5.0とか、これからテクノロジーを無視して考えることはできないと思う。いただいた意見は計画を考えていくうえでの新しい基軸の材料だと思うが、宇治市が考えていくべき新しい政策の基軸に新たに何かヒントがあればお聞きしたい。

(委員)

テクノロジーの検討にはプラットフォームの議論が必要と考える。先ほど車椅子の話があったが、車椅子運動会を企画している方々について紹介したい。複数の府県から参加し、車椅子の人達とともに一緒にできる運動会をみんなで考えるうえで、共創プラットフォームをネット上に作ってお互いにアイデアを出し、実際に参加者としてもイベントに加わっている。非常によくできていて、実際に競技をしながら、「これは無理だ」ということに関しては、すぐ修正を入れる逐次性のあるイベントとなっている。相互理解を高めて、決めつけず、変わり続けることを許容する仕組みは開発と試行を繰り返すテクノロジーのプラットフォームの作り方はスポーツ環境にもなじみが良い。

従来、プロダクトや製品、イベントを完成形で作ってそれを提供するのが当然であったが、実際には難易度が高く時間もコストも必要となる。SNS等でリアルタイムの交流を並行して行いながら、完成させないことを許容しつつ、自分自身もイベントを作る担い手となる仕組みが重要と言われている。society5.0の議論のなかでも、そうした共創の仕組み作りが一番のキーになっている。コンピュータや、ITそのものよりも、ネットワークでつながっている現状をふまえて、これまで実現できなかった包摂的な取組について、全部巻き込みながらできる方法があるのではないかとされている。

実際にいくつかアイデアも出ている。例えば、「バーチャル宇治市」をまるまる作るデジタルツインによるデータプラットフォームはどうだろうか。バーチャル空間で実際に案内したり、イベントを仮想空間でも起こしながら、リアルにも連携させるなど様々なデータプラットフォームとして活用が期待できる。社会インフラとして、まちをまるごとデータ化するということは、既に国交省で「プロジェクトプラトーン」という形で進められている。クラウド上に公開されているのは一部のモデル地区に限定されているが、率先して宇治市がモデル地区に立候補するのも良いかもしれない。市民の方々にも、このデータを使って一緒に考えていこうという形で活用することもできるだろう。これまでは、何かイベントを作る、建物を作るとなると、安全面のこともあるので、関係ない人が参加すると困るという話があったが、データ上であれば参加しやすくなるし、コントロールもしやすい。障壁を下げるという効果もあって、一度にたくさんの方が関わることもできる。バーチャル空間のイベント活用の可能性は広がっている。以前はeスポーツのスタジアムを設計してほしいというような話があったが、今はもうその話はほとんどない。なぜなら全部バーチャル上になっているから。バーチャル宇治市にバーチャル会場があって、そこに何万人という人が集まる。例えばバーチャル上の平等院鳳凰堂でeスポーツの大会が行われる大会イベントがあっても良いかもしれない。まずはみんなで共有するためのデータプラットフォームや仕

第2回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

組みそのものを問う方が良いのではないかと思う。

(会長)

何でもバーチャルになることはどうかと思うが、プラットフォーム上で可能性が開けることはよく分かる。建築の部分ではワークショップ等もたくさんしているが、ともに作ることが重要になる。まちも政策もそうだが、そのプロセスにいかにかコミットしてもらうかが重要だと思うので、そのあたりもアイデアをいただきながら考えていきたい。

▶ 実態調査（アンケート）について

(事務局)

資料③～⑤の内容について説明。

(会長)

アンケートなので基本的に数量化しやすいものとなるが、こういう状況を把握すべきという意見があればいただきたい。団体に関するところでは、なかなか書きづらいところもあるので、ヒアリングを入れていくとか、精緻な情報を入れるという形にしたいと思う。団体もしくは市民、その他に関して、把握しておくべきリサーチの観点や項目についての意見をいただきたい。

(委員)

コロナで苦労していることは山ほどあると思うが、団体向けにはなるが、むしろコロナに対して、イベント実施等でどういう工夫をしたかということが、将来的に有効かどうか、その時にどういう人達が参加したか、そういうところのファクトそのものを集めることが重要だと思う。コロナ状況下のスポーツイベント実施が分かる定性的なデータが集められると良いと思う。

(委員)

団体のアンケートについて、宇治市には22の小学校があり、そこにスポーツ団体の学校開放委員会という組織がある。その団体も、活動している中での悩みや要望もあれば、こういうことを実施して成功したというような成功事例もあると思うので、そちらの団体にも照会かけた方が良いと思う。

(会長)

十分検討の余地はあると思う。ネットワークを使って、可能な限り、取れるところは取った方が良いと思う。

(事務局)

検討する。

(委員)

問2で運動スポーツの頻度を聞いているが、直近1年間となると、コロナ状況下でのバイアス

第2回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

のかかったデータになると思うが、それは構わないのか。例えば、1年前と直近1年間で区別するとか、今後の推進計画を立てる上で影響はないのか。

(会長)

想起法になるので、どうせ想起するというのであれば、コロナ禍の前とコロナ禍とで分けて聞こうということも検討している。ボリュームが多くなるとしんどい部分もあると思うが、現状把握というところでは、コロナ前の実態とコロナ禍の実態と、検討させていただく。

(委員)

別の分野になるが、宇治市総合計画審議会で、市の目標として健康長寿日本一を目指すという内容があったと思うので、アンケートで、健康体力づくり+長寿につながるような項目があると良いと思う。長生きしたいからスポーツをするというような思いを持っておられる方もあると思う。

(会長)

実施の理由として、当然そういうこともあると思う。市の政策に添った内容についても、きちんと捉えていきたいと思う。

(委員)

スポーツをするにあたっての原点のところの方が分かりにくいのではないかと思う。「あなたは運動・スポーツで体を動かすことは好きですか」として、好きか嫌いかを答えるが、スポーツをするということが、各自で捉え方が違う。運動靴を履いて出て歩いたかどうかとか、もっと基礎的なところからの問が一つ必要ではないか。運動という部分が、高齢になると捉え方が大雑把過ぎるので、もう少し分かりやすい文言があれば良いと思う。

(会長)

検討させていただきたいと思う。

(委員)

このアンケートを、忙しい中で10分かけて答えて投函するかというところに、少し疑問が浮かんだ。表紙のアンケート調査の部分に、何のために調査をするのか、宇治市をどうしていきたいから調査をするのかというところ、「健康長寿日本一の宇治」みたいなものを書いてもらった方が、皆さん協力的になるのではないかと思う。

(会長)

おっしゃる通りだと思う。計画策定ということよりも、市民の声を拾い集めたいのはなぜかということが上手く伝えられるような、皆さんの声が聞きたいということを手く表現できるように工夫させていただければと思う。

第2回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

(委員)

やはりハードルを下げるということが、スポーツを推進するうえでは、すごく重要だと思う。厚労省の健康寿命延伸プランでも、ナッジを活用した自然に健康になれる環境づくりを推奨していることが掲げられている。ナッジというのは、人々の背中を軽く押して、簡単に主体的に取り組んでもらう方法になる。今、特定保健指導でもリフレッシュウォーキングをしている。その宇治市版で、例えばリフレッシュウォーキングのスタンプラリーを観光と組み合わせて、京阪宇治駅からJR宇治駅までの約3kmの途中でスタンプを集めたら、何か試飲とか試食ができるとか、ナッジを活用した仕組みづくりになるのではないかと思う。見直しの基本的な考え方の7番、市民の分かりやすさを重視というところは、今後すごく考えていかないといけないと思う。

(会長)

スポーツというだけで、高齢の方は自分とは関係ないと思われるところもある。健康づくりとか運動という言葉の方が馴染みやすい部分もある。確かにハードルを下げて、普段の行為が健康づくりにつながっているということが上手く表現できるような工夫をさせていただきたいと思う。

(委員)

今、地域でスポーツを推進したり、体育振興会に所属して活動したりしているが、ニュースポーツと言われて2005～2010年頃にできたグラウンドゴルフが、お年寄りにも大変励みになっている。ただ、その後の後続がないのが非常に悩みになっている。地域活動の中で何かを選びたいと思うが、体の不自由な方でもできるようなスポーツで、健康な方でも参加できるような、今回の計画改定において、何か宇治市に特化したニュースポーツを考えてはどうかと思う。

(会長)

宇治市的には、それがフライングディスクになれば良いと考えているところがあると思う。ワールドマスターズゲームズでフライングディスクをされる。これも競技の中で種目が複数分かれていて、多様な方々が楽しめるようになっている。そういうニューコンセプトスポーツを創り出して何かのメッカにすること、そのうちの1つにフライングディスクがあっても良いと思う。そういう政策的に打ち出していくことがあれば良いと思う。

(委員)

サンガでも色々とアンケートは取るが、サンガを見にくる方に対するアンケートは、好きな人が中心になるので良い点数が出るが、まったく体育施設に関係ないところで、どれだけの情報が取れるかが、まちをあげてのスポーツということには貴重な情報になると思う。少し漠然としてしまうが、そういう設問が、1つか2つあると良いと思う。

(会長)

Jリーグでも観戦者調査はたくさんしているので、観戦者の動向は分かっているが、そのホームタウンにいる人達の動向はなかなか分かりづらい。京都の人は、京都には誇れるブランドがすでにあるからと言って、あまりそういうものに流されない人達が多いので、地域にある資産や資

第2回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

源を、どう捉えているのか。これはスポーツに限らず、宇治市の観光資源に対する利用とか認知に関することも聞いても良いのではないかと思う。

2,000人に実施する調査になる。回収率は、どんなに頑張っても25%程度だとは思いますが、大規模な調査をする機会になるので、現状把握だけではなくて、未来を予測するためにも、今この時しか聞けないようなことを聞いておきたいと思う。スケジュールとの関係もあるが、スケジュールに則ってやることよりも、意味あることができるようにしていきたいと思う。

6. その他

- 今後のスケジュールについての説明

7. 閉会

-----了-----